



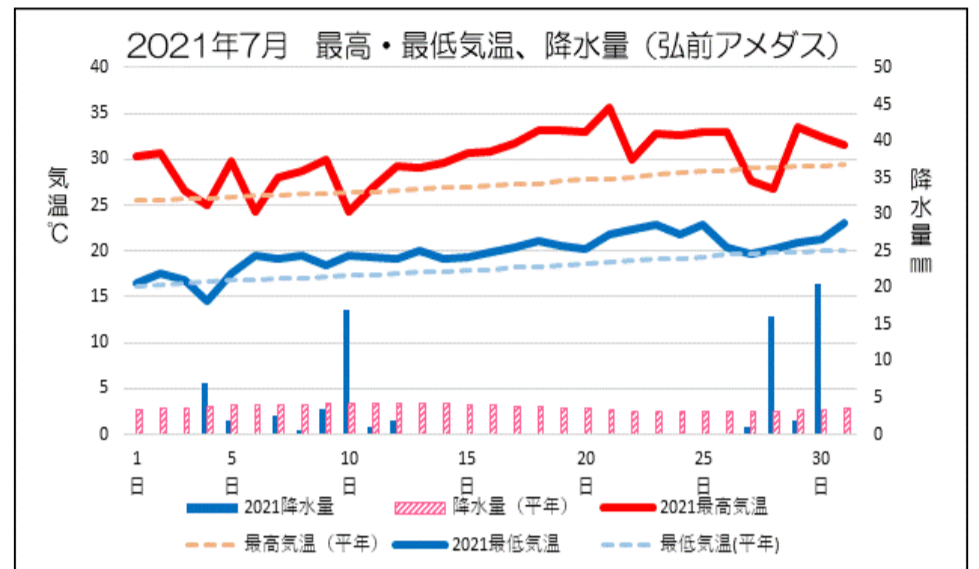
水稻生産情報



JA つがる弘前
弘前中央地区営農係

生態早い。今後の高温に注意！

- 7月は平年より気温がかなり高く、降水量は平年の6~7割程度と少なく推移しました。8~9月は降水量は平年並みで、気温が平年より高くなる見込です。
- 現在、生育は草丈が平年よりやや長く、莖数が平年並み~やや少ない状況となっております。
- 今年は気温が高く推移したため平年より生育が早まっています。水管理、病害虫防除など適期を逃さないよう気を付けましょう。また今後も気温が高く推移する見込みとなっておりますので、高温に負けないよう特に水管理はしっかり行いましょう。



1. 水管理

時期	水深		目的
	気温が高い日	気温が低い日	
出穂・開花期 (平年8月4日頃~)	5~6 cm	10 cm	・開花、受精促進 ・根の老化防止 高温対策 ・出穂後の気温が高いほど胴割れ、乳白粒が発生しやすくなります。かけ流しを行い、水田の水温、地温を低下させましょう。
	2~3 cm	10 cm	
登熟期 (平年8月14日頃~)	2~3 cm	10 cm	・根の老化防止のため、間断かんがいを行いましょう。

★生態が平年と比べ4~5日程度早まっております。いつもの感覚で作業を行うと適期を逃してしまいます。平年値を載せていますが、自分の稲の生態に合わせて早めに作業を行いましょう。

2. 病害虫防除

時期	対象病害虫	薬剤	散布量/10a
穂揃期 (平年8月7日頃)	いもち病、カメムシ	ビームスタークル DL 粉剤	3~4 kg
穂揃期 7~10日後	カメムシ	スタークル粉剤	3 kg



【アカヒゲホソミドリカスミカメ】

※航空防除散布予定 (藤崎地区 8月12~13日、中央地区 8月9~10日)

3. 落水時期

- **高温対策** 落水が早すぎると胴割れ米、屑米等の発生を助長させます。高温時は、できる限り落水は遅らせ根や稲体の活性を維持しましょう。

水田の性質	落水時期
湿田	出穂後 20~25日 (平年8月24~29日頃)
乾田	出穂後 30~35日 (平年9月3~8日頃)
砂質田、漏水田 いもち病発生田など	基準よりやや遅くする
登熟が遅れている水田	穂の色や稔実程度を見ながら徐々に落水

＜高温等による障害＞

- ・出穂後に高温が続いたり、早期落水、刈取り遅れ等で発生が助長されます。
- ・今年も高温で推移する予報となっているので高温対策をしっかり行いましょう。

胴割れ粒

くさび米

乳白粒

屑米等

4. カメムシ対策

- 今年はカメムシの発生は『やや多い』と予想されます。
- **9月上旬まで、畦畔の草刈りは絶対にやめましょう！**
今畦畔の草を刈ると、畦畔にいたカメムシを本田へ追いやることとなり、まだ柔らかい穂が吸汁され、斑点米の被害を助長させていただきます。草刈りは絶対にやめましょう。
- 1等米を目指そう！
カメムシの被害粒が1,000粒中2粒あると2等米、4粒で3等米へ落等します。1等と比べ2等は300円、3等は1,300円も価格に差が出ます (令和2年産)。みんなで高温対策はもちろん、カメムシ防除を徹底し1等米を目指しましょう！



カメムシ被害粒

この中に2粒あるだけで2等へ落ちてしまいます。



玄米 約1,000粒